



議政の凝視

白 洋 漁 夫

非常時と言ふ何が非常時か、外、國際關係を見、内、國民生活の實情を察するの秋恰かも黒雲天日を蔽ふの感がする、だが國民全體は此非常時に直面して十分な理解と自覺と奮勵と緊喚を告ぐる核心を把握して居るかどうか、存

ろうか。一國の選良と稱する代議士が組織しておる帝國議會の狀態を一瞥するに於て首肯し得るであるのである、時は非常時である、内閣は所謂憲政の常道に副はざるの内閣である、國交は國運を賭さなければならぬかの感がする、内政は幾多國民を安堵に導かねばならぬ政策を要求し而かも頽廢せる風

紀を匡正し、操守を誤れるものは之を救ひ、眞摯の風を缺き常軌を逸するの徒に對しては之を制止し、國法を柔りて暴力を用ゆるの輩に對しては嚴罰を加へ國を擧げて其途を正しからしむる爲めに眞劍に討議し懸命に検討しなければならぬのが第六十四議會の任務であらねばならぬ、夫れが惰氣満々たる議會とか「アクビをする議會」とか批判せらるゝこと程左様にグラシない議會振であつたことは恐らく議會に出入した者の均しく認むる所であろう、之れが舉國一致内閣に對して既成政黨が捧げた敬意であるかは知らねども一般國民より見て何んとなき事である。

か、或は云ふ此議會程眞面目な議會はない其處には一回の泥仕合はなかつた

一度も亂闘的光景は呈しなかつた、議長の手で振鈴を以て議場の静肅を命じた事がなかつた、實に未曾有の議事情況であつた、而かも政府提出の重要法案は米穀統制法、外國爲替管理法、日本製鐵株式會社法、農村負債整理組合法、南滿洲鐵道株式會社の株式引受に関する件其他醫師法の如きは平穩裡に協賛を経たのである、唯東京都制案及衆議院議員選舉法改正案のみが未了に終つたのみであるから成績としては大に賞揚すべき價があると。東京都制案の如きは如何なる内閣の提案にもせよファツシヨ的空閑氣を利用せざる限り其通過は至難であると言ふべきである、然らば今回の議會は何を誇るべきか前代未聞の膨大豫算を議定したので

満洲での軍力的活躍が國民をして禮讃せしむるに至り得ることであろうか、奉公の誠を致すと述べられたと傳へらるゝが一方では此内閣の自力更生主義も寄合世帶たるが爲めに犬の遠吠に過ぎないではなかろうかとも見られて、近き最も近き將來に於て政變來を高唱して居る者が少くない、去勢されたと國民から認められてゐる既成政黨が果して其政權を獲得し得るであろうか。とにかくにもかくにも精彩を缺き活氣を喪ひ無爲に終始した第六十四議會は終了した非常時と云ひ重大な時局と云ふ力邊に在る、歸去來の辭は古文に學ぶべきも枕するの處なきをかこつて外なき夢みて熟柿を掌中に收めんと期待せるは獨り吾人のみではなかろう、我が日本のために其責任を盡すであろうか、既成政黨の腐敗墮落が其極に達したが故に其の誠を致すと述べられたと傳へらるゝが一方では此内閣の自力更生主義ではないと考案することもまた一理なきとのではないが翻つて國民全體の氣力、活力、動力乃至精神的狀態を觀察するときに果してかく新政黨の樹立が容易であるうか、曾ては憲政本黨の幻滅を、されどに見て如何に歸趣すべきか、更らに國民同盟の事情を眼前に曝し出されたのに見て如何に歸趣すべきか、鳴呼斯蒼生を奈何せん、田園荒廢して歸らんに處なく東方蓬萊の夢想郷や何邊に在る、歸去來の辭は古文に學ぶべきも枕するの處なきをかこつて外なき夢みて熟柿を掌中に收めんと期待せるは獨り吾人のみではなかろう、我が日本